

ハインツ・マイヤー＝ライプニッツ賞オンライン講演会 2022 登壇者紹介

オンライン講演会「プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）と脱炭素化の社会的ダイナミクス」 2022年12月14日

開会挨拶



イングリット・クルスマン 博士
ドイツ研究振興協会（DFG）国際交流部 副部長、アジア・パシフィック地域長、Sino-German 研究振興センター長、日本代表部

代表

[DFG Head Office: Dr. Ingrid Krüßmann](#)

閉会挨拶



アクセル・カーベンシュタイン
ドイツ学術交流会（DAAD）東京事務所所長、ドイツ科学・イノベーション フォーラム東京（DWIH 東京）ディレクター

[Außenstelle Tokyo - DAAD Japan](#)

DFG ハインツ・マイヤー＝ライプニッツ賞 2019 年受賞者



ヨナタン・ドンガス 博士 ポツダム気候影響研究所（PIK）人新世における地球レジリエンスに関するフューチャー・ラボの共同リーダーおよび地球システム解析研究部門全地球システム解析ワーキンググループリーダー。COPANコラボレーション圏でPIKの複雑性科学部門（RD4）とは密接に協力。

研究テーマは、惑星規模の社会－生態学的システムの動態、気候的・社会的転換要素、これらのダイナミクスと相互作用、脱炭素化のダイナミクスと持続可能性の変革、社会－環境の共進化ダイナミクスの概念モデル、複雑なネットワークの構造とダイナミクス、非線形ダイナミクスや時系列解析手法の気候物理学や地球システム解析への応用。

[DFG, German Research Foundation - Dr. Jonathan F. Dinges - Heinz Maier-Leibnitz Prizewinner 2019](#)



シュテファン・アイクト 博士 ハンブルク大学社会学部准教授、および同大学「持続可能な社会研究センター（CSS）」所長。ベルリン自由大学、イスタンブール・サバンジュ大学、パリ社会科学高等研究院（EHESS）で社会・政治科学と歴史学を学ぶ。研究においては、現代社会が地球規模の生態系問題（特に気候変動）にどのように関わっているか、生態系危機がどのように科学的に解釈され、政治的に処理され、社会変革のプログラムに組み込まれていくのか、またこの過程で新しい対立や社会協調の新しい形態がどのように出現するかを観察している。地球規模気候ガバナンスや各国のエネルギー転換

について広く出版、また “Gouverner le climat? négociations internationales (Presses de Sciences Po, 2015)”, “Globalising the climate: COP21 and the ‘climatisation’ of global debates (Routledge, 2017)”, “Climatiser le monde (Quae, 2020)” を共著。 (Presses de Sciences Po, 2015), Globalising the climate: COP21 and the ‘climatisation’ of global debates (Routledge, 2017) and Climatiser le monde (Quae, 2020).

[DFG, German Research Foundation - Prof. Dr. Stefan Cihan Aykut - Heinz Maier-Leibnitz Prizewinner 2019](#)

司会



アナ・ユリア・ザイガー 博士 フライブルク大学法学部第二部メディア情報法研究所 研究員及び、ベルリン・フンボルト大学法と社会の統合研究所フェロー。フライブルク大学、パリ第 1 パンテオン・ソルボンヌ大学、ローマ・ラ・サピエンツァ大学で法学を学び、2017 年 キングス・カレッジ・ロンドンで法学修士号 (LL.M.)、2022 年ベルリン・フンボルト大学で博士号を取得。ベルリンの環境問題研究所で研究員として、またベルリンとパリの法律事務所でも実務及び国際経験を積む。専門は、気候変動に関する国際法、サステナビリティ・ガバナンスや比較国際法。

パネリスト



朝山慎一郎 博士
国立環境研究所
社会システム領域
主任研究者

[Shinichiro Asayama
\(nies.go.jp\)](mailto:Shinichiro.Asayama@nies.go.jp)



落合ちほ 博士
京都大学大学院
地球環境学堂
准教授

[Chiho Ochiai \(kyoto-
u.ac.jp\)](mailto:Chiho.Ochiai@kyoto-u.ac.jp)



吉田明子
認定特定非営利活動
法人 FoE Japan
担当：気候変動、
原発、パワーシフト
キャンペーン

[Akiko Yoshida
\(foejapan.org\)](mailto:Akiko.Yoshida@foejapan.org)



長谷川知子 博士
立命館大学工学部
准教授

[Tomoko Hasegawa
\(ritsumei.ac.jp\)](mailto:Tomoko.Hasegawa@ritsumei.ac.jp)

オンラインワークショップ「未来の気候へのタイムトリップをかなえる ClimateTimeMachine」
2022 年 12 月 15 日

司会



ダニエル・タンベルク SCIARA 発案、共同創業者

2019 年、これまで 30 年近く培った IT 業界での知識と経験を活かし、何か社会に貢献したいと考え、過去に読んだ書籍「成長の限界」から気候変動の学術モデルをベースとするシミュレーション開発の着想を得る。

ポツダム気候影響研究所のエージェント・ベースの分野を専門とする 2 人の研究者に持ち掛けたところ、シミュレーションへの可能性を見込み、同研究所所長ヨハン・ロックストローム氏の協力を得て、開発に至る。